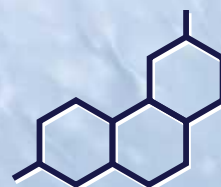




大阪有機化学工業株式会社  
OSAKA ORGANIC CHEMICAL INDUSTRY LTD.  
のびゆく力、未来へ

## 会社説明会および 2009年11月期第2四半期決算説明会資料

2009年7月3日



### 目次

- I. 2009年11月期第2四半期連結決算・・・ p.2
- II. 2009年11月期連結業績予想・・・ p.12
- III. 成長戦略・中期事業計画の状況・・・ p.30

# I. 2009年11月期 第2四半期連結決算

## 当社を取り巻く環境と取り組み

### 当社を取り巻く環境

1. 世界的な金融危機による各産業界の不振
2. 液晶・半導体業界の大幅な環境変化
3. 自動車業界をはじめとする各業界の生産・在庫調整
4. 円高・為替市場の環境変化
5. 原油価格の急激な下落に伴う  
原燃料及び製品価格下落懸念

## 第2四半期までの取り組み

1. 販売の強化
2. 生産コストの削減
3. 研究開発の強化
4. 財務基盤の強化
5. 設備投資の見直し
6. 経費削減

## 業績概要(連結)

(百万円、%)

	08/5	09/5		
			増減	前年比
売上高	13,135	7,305	-5,830	55.6%
営業利益	996	-261	-1,257	—
経常利益	1015	-236	-1,251	—
当期純利益	606	-1,247	-1,853	—

n売上高:前年比 55.6%

┆ 減収要因は、各産業界における需要の急減による販売減。

n営業利益、経常利益:共に大幅減益。

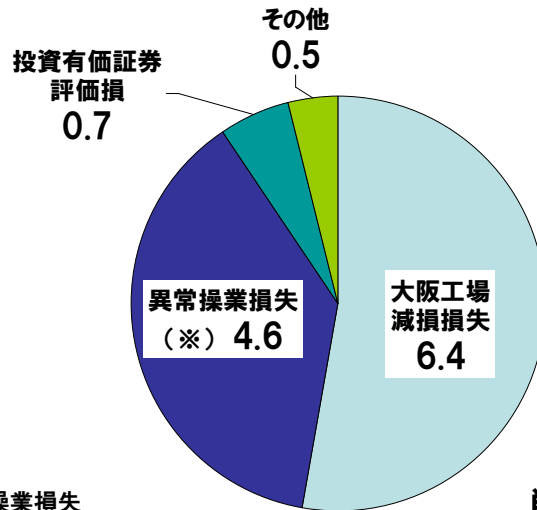
┆ 減益要因は、売上高と在庫の減少。

n当期純利益:特別損失による大幅減益。

┆ 特別損失の内訳は、異常操業損失、投資有価証券評価損、大阪工場の減損損失。

## 業績概要(連結)

### 第2四半期 特別損失(12億円)の内訳



※ 異常操業損失  
当社の各工場におけるプラント設備の操業度が著しく低下したことに伴う異常原価相当額を計上

単位:億円

## 部門別売上高(連結)

(百万円、%)

	08/5	09/5	
		増減	前年比
売上高	13,135	7,305	-5,830 55.6%
エステル化製品部門	6,166	3,611	-2,555 58.6%
特殊化学品部門	6,305	3,313	-2,992 52.5%
営業利益	996	-261	-1,257 -

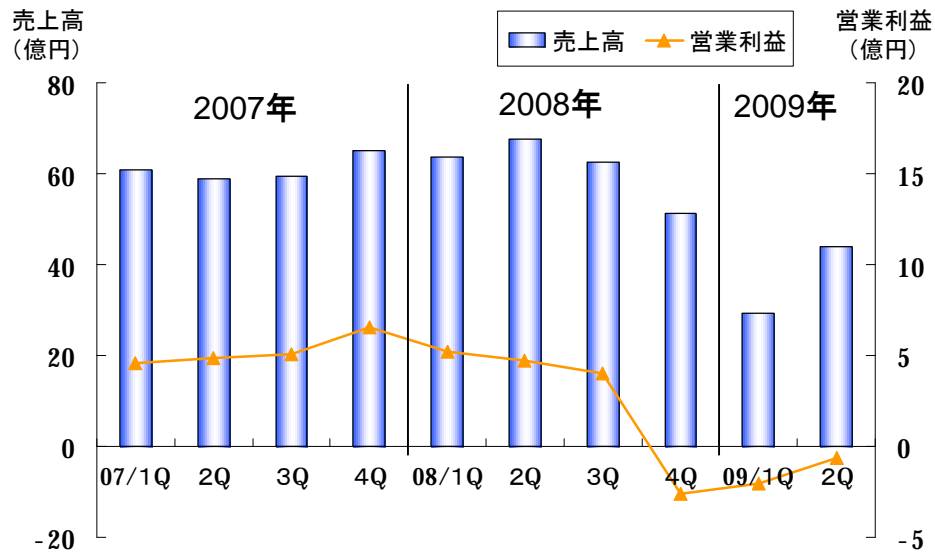
nエステル化製品部門・・・前年比 58.6%

lメタクリル酸エステルは、前年比約50%まで大幅ダウン。

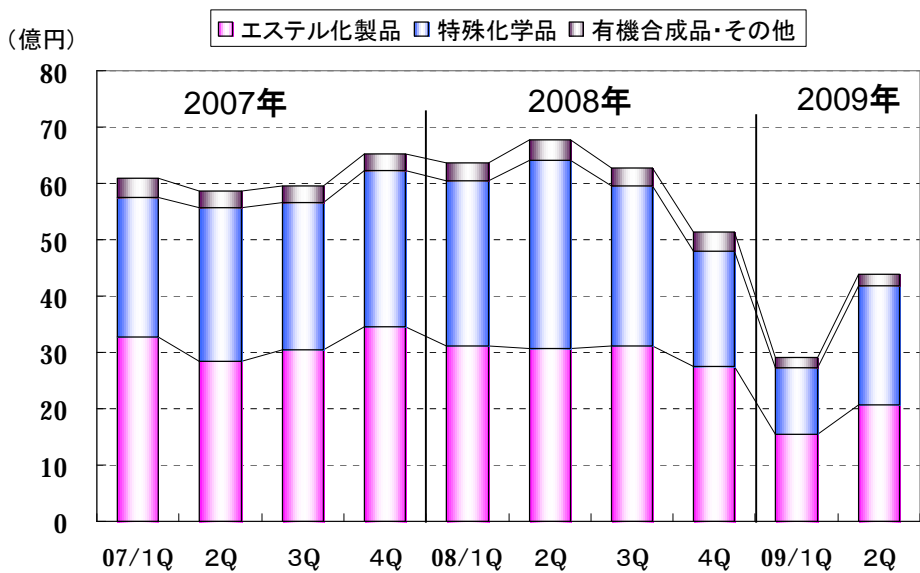
n特殊化学品部門・・・・・・前年比 52.5%

l化粧品は前年並み、医薬中間体は9割弱を維持するが、電材が5割と大幅減。

## 売上高と営業利益の四半期推移



## 部門別売上高の四半期推移



## 比較連結貸借対照表

(百万円)

項目	08/5末	09/5末	増減	備考
<b>資産合計</b>	27,748	23,946	-3,802	
流動資産	13,916	9,606	-4,310	受取手形・売掛金の減少
有形固定資産	11,156	11,231	75	
投資その他の資産	2,671	3,105	434	投資有価証券の増加
<b>負債合計</b>	7,624	6,075	-1,549	
流動負債	5,999	4,360	-1,639	支払手形・買掛金の減少
固定負債	1,624	1,714	90	大阪工場撤去損失引当金
<b>純資産合計</b>	20,123	17,870	-2,253	利益剰余金の減少
少数株主持分	200	162	-38	
<b>負債純資産合計</b>	27,748	23,946	-3,802	

## キャッシュ・フロー（連結）

(百万円)

項目	08/5	09/5	備考
営業活動による キャッシュフロー	1,932	436	税金等調整前四半期 純損失
投資活動による キャッシュフロー	73	△1,118	有形固定資産の取得
財務活動による キャッシュフロー	△269	244	短期借入金の純増額
現金及び現金同等物の 増加額	1,736	△437	
現金及び現金同等物の 期首残高	693	1,748	
現金及び現金同等物の 期末残高	2,430	1,310	

## II. 2009年11月期連結業績予想

### 今後の取り組み

1. 販売の強化
2. 生産性の改善による原価低減
3. 研究開発の強化
4. 財務基盤の強化
5. 設備投資の見直し
6. 経費削減

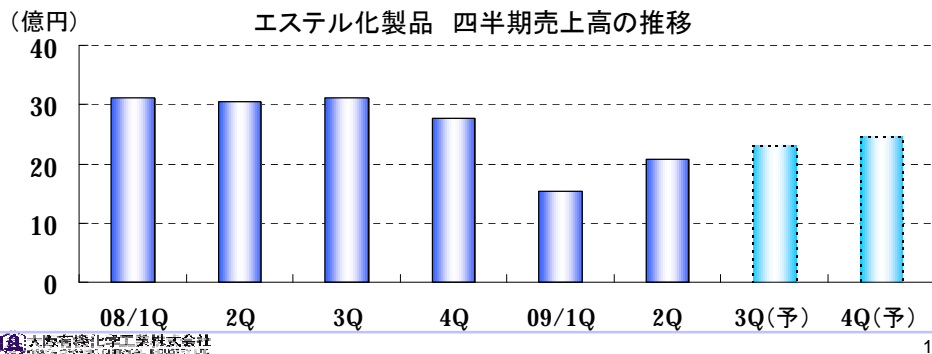
## 1. 販売の強化(業績回復に向けた取り組み)

### 1. エステル化製品

景気の急激な悪化 ⇒ 当社製品の二大用途の自動車塗料、電材向けを中心に極端な販売不振

4月以降は、景気の緩やかな回復と在庫水準の正常化により、生産・販売も底を打った

主力の**アクリル酸エステル**：ピーク時の約7割程度まで回復



## 1. 販売の強化(業績回復に向けた取り組み)

### 2. 特殊化学品

#### (1)電子材料G

販売数量は回復傾向だが、価格下落による利益率低下

- ⇒ 現状シェア維持と新市場への拡販
- ⇒ 新規周辺材料の提案

#### (2)医薬中間体G

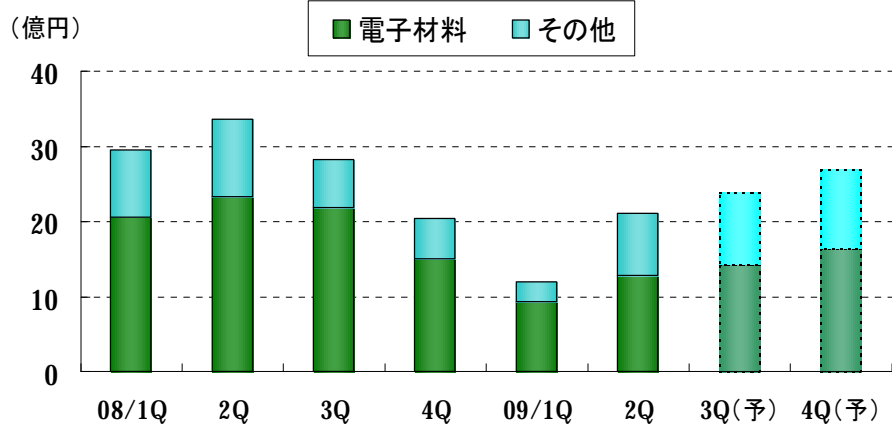
経済環境の影響を受けにくく安定

- ⇒ 生体適合性材料の特性を活かした新規材料の提案
- ⇒ 新規医薬中間体の投入を検討
- ⇒ 新規パイロットプラントの活用で迅速な顧客対応



## 1. 販売の強化(業績回復に向けた取り組み)

特殊化学品 四半期売上高の推移



## 2. 生産性の改善による原価低減①

エステル化製品の**金沢工場**への移管・集約による生産合理化

- 1) **大阪工場**で生産している製品の**金沢工場**へ移管・集約を推進。  
製造工程の合理化と稼働率上昇によるコストメリットを確保。
- 2) **金沢工場**のエステル化製品の生産性改善検討によるコスト削減。

## 2. 生産性の改善による原価低減②

### 生産コスト削減に向けた取り組み

- ・ 製品の合理化を目的とした移管の推進  
(再整備計画の見直し)

① 2014年を目処に大阪工場生産製品を  
金沢工場及び酒田工場に移管

② 大阪工場 減損会計処理

6億3千8百万円

(第2四半期 特別損失)



再整備前の大阪工場製造プラント

## 3. 研究開発の強化①

### 1. 積極的研究設備投資による迅速な顧客対応

1) 新研究棟を金沢工場に建設:

工場密着型研究の強化による迅速な顧客対応

2) 新パイロットプラント設備を金沢工場に建設:

① 技術改良の促進 ② 迅速な事業化



新研究棟(7月完成)



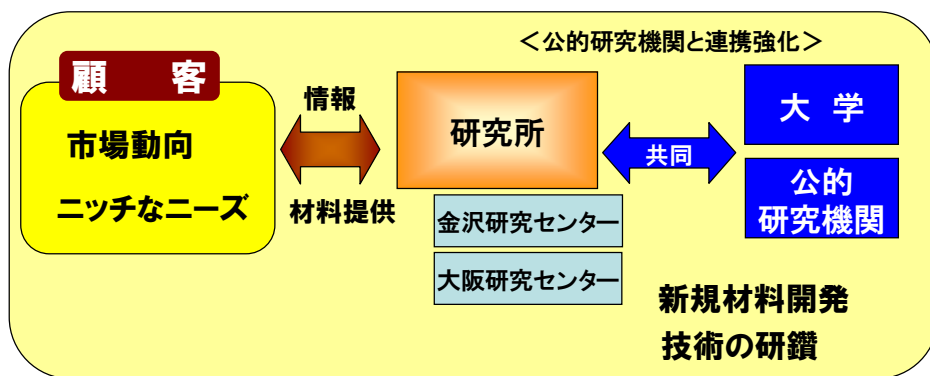
パイロットプラント設備(1月完成)

### 3. 研究開発の強化②

#### 2. 産学連携による新規技術、新規材料開発の促進

1) 記録材料、表示材料、半導体材料、エネルギー関連、ライフサイエンスの5分野において、共同研究を推進。

2) プロジェクト方式による重点研究への資源の集中



### 4. 財務基盤の強化

#### 1. 自己資本比率

74% (2009年度 第2四半期)

2009年度以降 70%の維持

#### 2. 資金の確保

コミットメントラインの締結

中期的(2年間)貸付枠 20億円

平成20年11月から平成22年10月

## 5. 設備投資の見直し

1. 選択と集中により、合理化と新規事業を中心に適切な投資を継続する。
2. 大阪工場から他工場への製品の製造移管は、既存設備の有効利用を第一条件とし、コスト削減に取り組む。

## 6. 経費削減

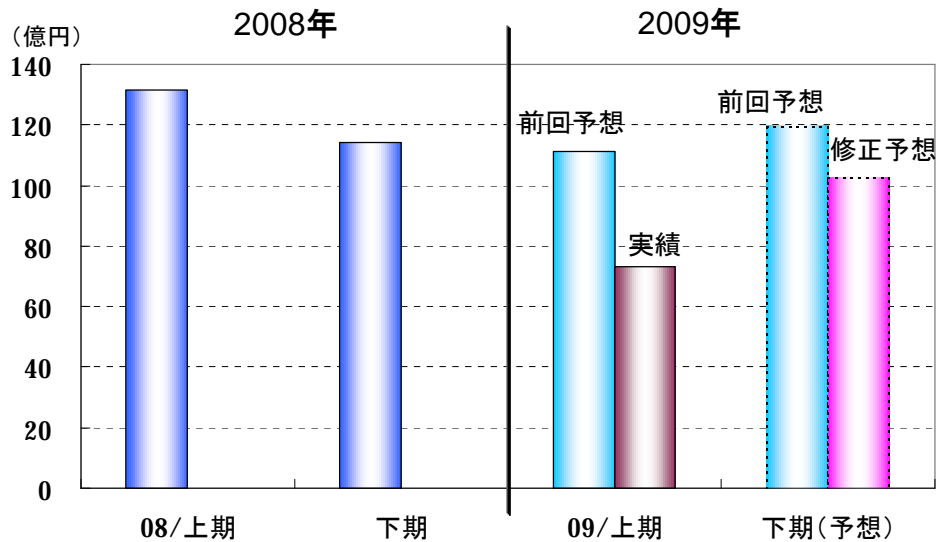
1. 経費の削減
  - ① 人件費の抑制
  - ② 燃料費等その他経費の削減
2. 設備投資計画の見直しによる償却費削減

## 業績予想概要(連結)

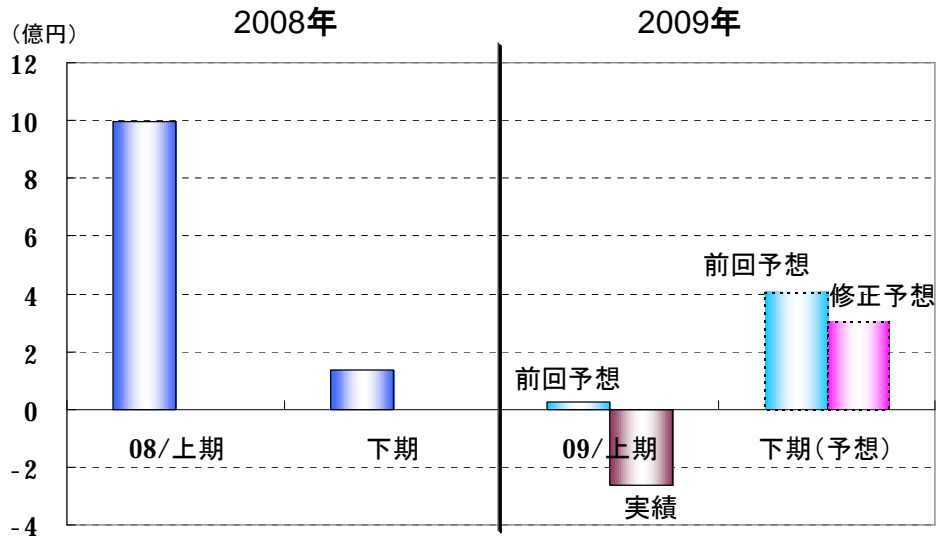
(百万円) <ご参考>

	08/11	09/11予想			09/5末 (実績)
		前回	修正	増減	
売上高	24,539	23,076	17,584	-5,492	7,305
営業利益	1,133	432	44	-388	-261
経常利益	1,190	479	55	-424	-236
当期純利益	331	244	-1,008	-1,252	-1,247

## 売上高の半期推移



## 営業利益の半期推移



## 部門別売上高予想(連結)

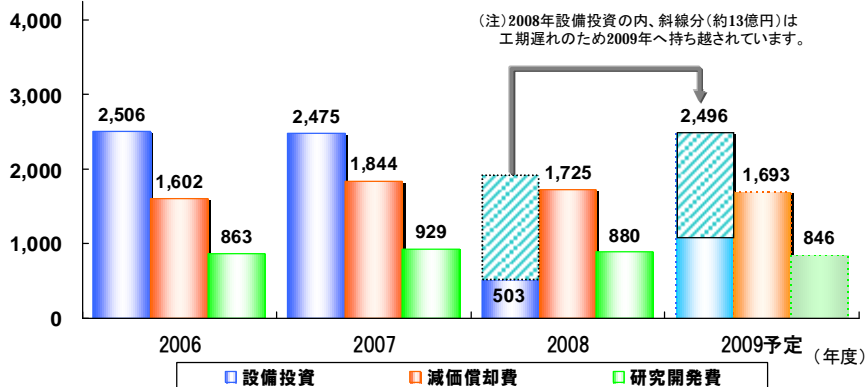
	09/11通期(予想)		上段: 前回	<ご参考> 09/5末 (実績)
	(百万円、%)	増減	下段: 修正 前年比	
エステル化製品部門	11,838	-203	98.3	3,611
	<b>8,389</b>	<b>-3,652</b>	<b>69.7</b>	
特殊化学品部門	9,974	-1,195	89.3	3,313
	<b>8,400</b>	<b>-2,769</b>	<b>75.2</b>	

nエステル化製品部門・・・アクリル酸エステルは前年比7割程度を見込む。

n特殊化学品部門・・・・電材は前年比7割弱を見込む。化粧品は堅調を保つ。

## 設備投資・減価償却・研究開発費

(百万円)



### n主な設備投資案件(2009/11期)

- Ⅰ 金沢工場 新パイロットプラント設備
- Ⅰ 金沢工場 新研究棟
- Ⅰ 金沢工場 副生油処理設備(廃油の燃料化設備)
- Ⅰ 金沢工場 エステル化製品製造設備(増設)

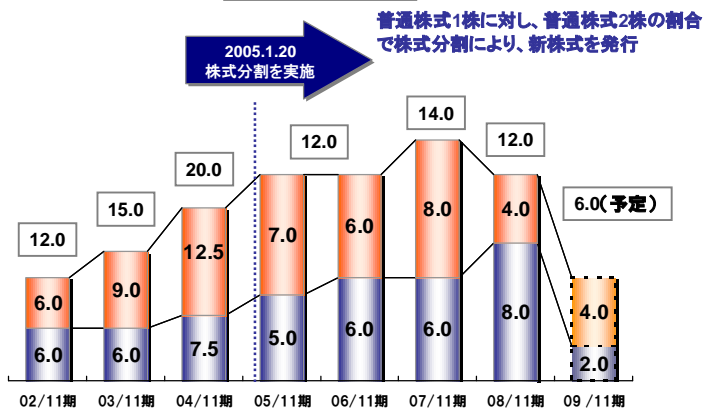
## 1株当たり配当金(実績と予想)

### n利益配分に関する基本方針

配当額 : 業績や今後の事業計画に備えた内部留保の充実等を勘案してバランスをとりつつ決定。  
 内部留保: 将来につながる新製品、新技術へ向けての研究開発投資や生産能力増強、合理化や高付加価値化へ向けての設備投資等の原資として活用。

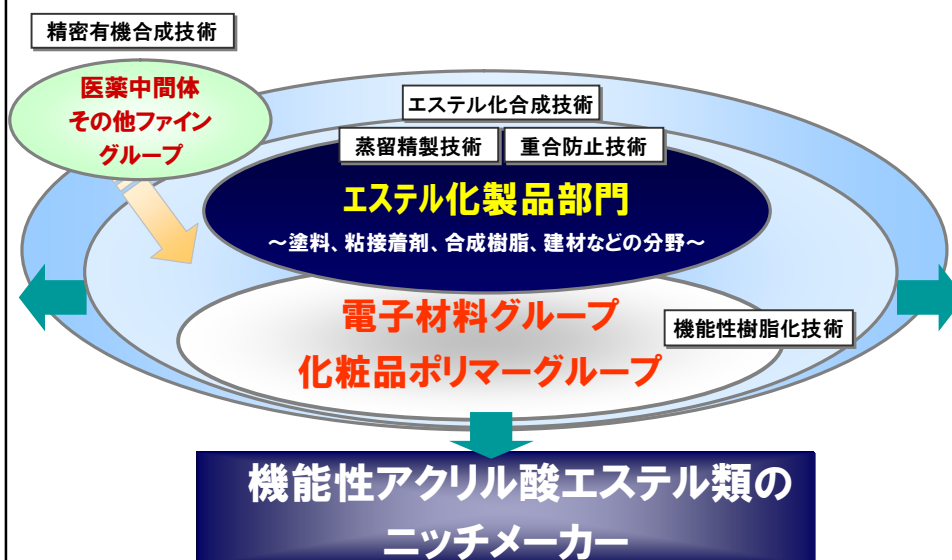
### 1株当たりの配当金の推移と予想

■ 中間配当 ■ 期末配当



### Ⅲ. 成長戦略・ 中期事業計画の状況

#### 特殊アクリル酸エステルを中核に発展





## 成長戦略の基本軸

### 選択と集中による持続的な成長力の構築

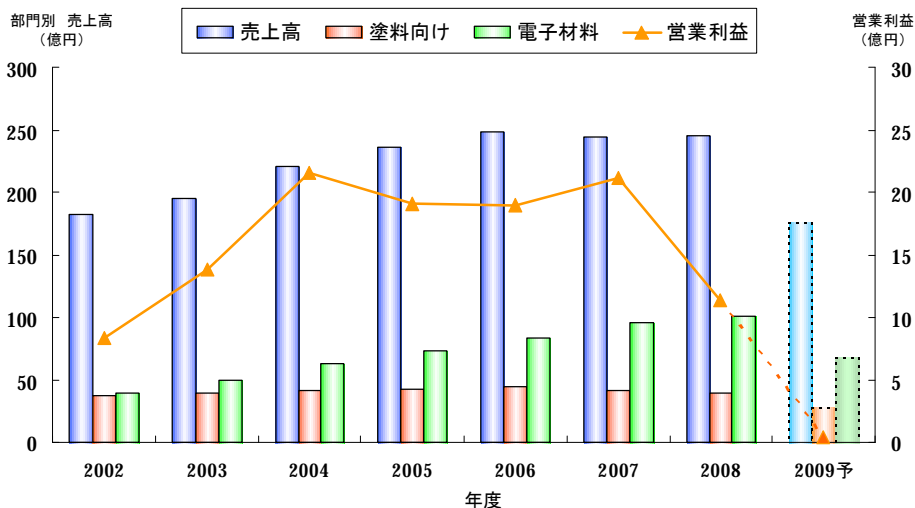
- I. 新製品開発のための技術力の強化
- II. コスト・品質競争力の向上
- III. 顧客の拡大とマーケティングの充実

### 企業の社会的責任の実現と企業価値の向上

- IV. 安全・環境・コンプライアンスの重視
- V. コーポレートガバナンスの充実
- VI. 財務体質の強化

## 当社の現状

### 部門別売上高と連結営業利益の推移



## 方針①:アクリル酸エステル製品

### 安定収益事業として強化

・特殊用途、販売の強化

例:自動車用高級塗料  
情報関連分野向け  
アクリル酸エステル

### 事業方針

<b>コスト競争力のアップ</b>	<b>事業規模の維持・拡大</b>
コスト、品質の優位性を生み出す <b>製造技術の強化</b>	<b>新規顧客、新規用途 の開拓</b>
<b>製品・製造設備の 合理化と集約化</b>	<b>新製品の開発</b>

## 方針②:電子材料分野

### 利益拡大のメインエンジンとして強化

・エレクトロニクス技術の  
変化スピード、陳腐化リスク  
・需要変動の大きさ

・フォトリソグラフィ技術の  
高精細化に伴う市場の拡大

### 事業方針

<b>今期～中期の視点</b>	<b>中長期的な視点</b>
<b>要求特性・品質への タイムリーな対応</b>	<b>次世代電子材料開発</b> ・ホログラムメモリー ・位相差材料
<b>海外展開の強化</b> 台湾事務所開設(5月)	<b>表示材料関連</b> ・EL材料への展開

### 方針③:環境対応及び基盤技術

#### 環境対応と基盤技術拡充への強化

環境負荷低減技術

基盤技術拡充

#### 重点項目

##### 技術的な視点

エネルギー・廃棄物量の削減  
(廃油の燃料化設備)

##### 公的研究機関との 共同研究による基礎技術拡充

- ・エステル化製品の製法
- ・新規製造技術
- ・生体適合材料
- ・表示材料

これらの開発

### アクリル酸エステルを基盤にした展開

事業方針:アクリル酸エステルを基盤にした  
電子材料分野・メディカル材料分野における事業の拡大

#### LCD材料

- ・位相差材料(色補償材料)
- ・オーバーコート(RGB着色剤保護膜)
- ・柱状スペーサーレジスト
- ・着色レジスト原料  
(ディスプレイ用RGB)

#### 記録媒体材料

- ・次世代記録材料  
(大容量化メモリー材料)
- ・ブルーレイ用材料  
(ディスクコーティング剤)
- ・DVD用材料(ディスク接着剤)

#### アクリル酸 エステル

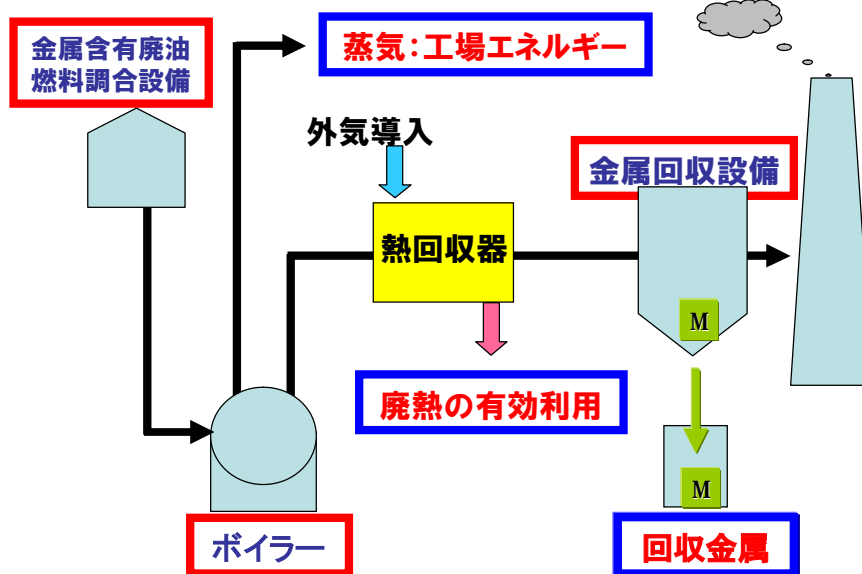
- ・ArFモノマー  
(大規模集積回路作製レジスト材料)
- ・半導体周辺材料  
(半導体パッケージ作製材料)
- ・液浸用ArFモノマー  
(次世代超集積回路作製用レジスト材料)

#### 半導体材料

- ・化粧品ポリマー  
(髪用、スキンケア用)
- ・医薬中間体  
(消炎鎮痛剤、抗生物質中間体)
- ・生体適合材料  
(人工臓器、関節、血管、バイオチップ)

#### メディカル材料

## 廃油の燃料化設備について①



## 廃油の燃料化設備について②

- ・ボイラーとして蒸気の活用
- ・熱の回収利用
- ・有価金属の回収
- ・共同開発による特許化





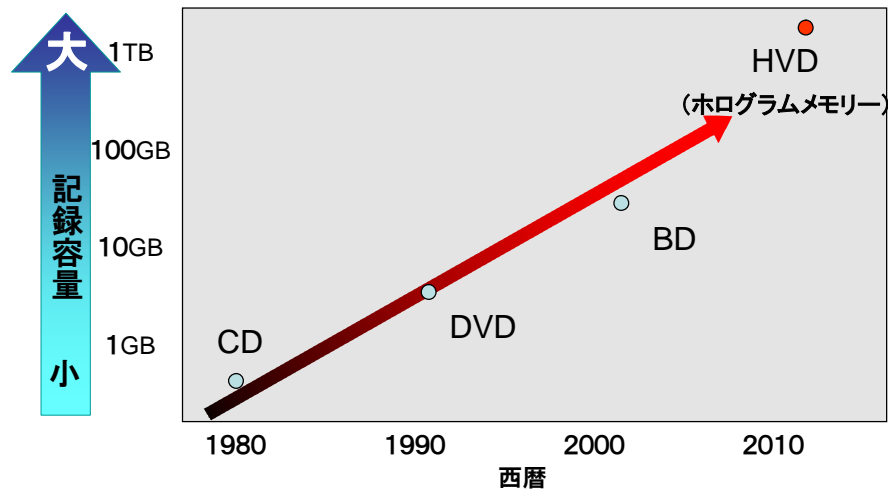
大阪有機化学工業株式会社  
OSAKA ORGANIC CHEMICAL INDUSTRY LTD.

のびゆく力、未来へ

本資料の予想数値等は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、本資料の内容と異なる場合があります。したがって、いかなる確約や保証を行うものではありません。

## ご参考1 大容量化を目指した次世代光学記録材料技術

アクリルモノマーの光硬化性を利用したホログラムメモリー材料の開発を目指した取り組み<共同研究>



## ご参考2 方針③- I 環境負荷低減技術

### エステル化製品製法開発による高効率法への転換

#### エステル化製品製法開発 ⇒ 反応触媒の探索研究

- ・廃棄物削減 : 製造工程発生廃水ゼロ
- ・エネルギー効率の大幅な改善
- ・生産性の向上とコスト削減

例: 従来法収率85% ⇒ 新法収率97%

## ご参考4 方針③- II 生体適合材料

### ヘアケア商品用に開発した新規モノマー(エステル化製品) の生体適合材料への展開<共同研究>

蛋白質が付着しにくい樹脂  
(ポリマー)の開発



血栓が出来にくい等、  
この性質を利用

生体材料、バイオチップ材料等  
体液関連産業への展開

<2007年共同研究成果> 学術論文: 4件投稿 学会発表: 9件、特許5件出願

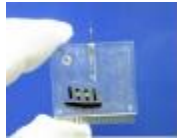
## ご参考5 方針③-Ⅱ 生体適合材料

### 生体適合材料でバイオチップの流路表面を改質する

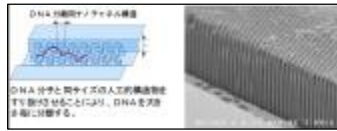
<期待できる効果>

流路表面に血液由来のタンパク質、血小板、生細胞などが付着(吸着)しないので、長時間使用しても流速が変わらない。詰まり(血栓)が起きにくい。

タンパクチップ、DNAチップ、糖鎖チップなどの吸着を避けたい箇所の表面被覆



バイオチップ



DNA分離用ナノチャンネル



埋込式バイオセンサー

## ご参考6 方針③-Ⅱ 生体適合材料

### 生体適合材料で人工臓器や人工血管の表面を改質する

<期待できる効果>

表面にタンパク質由来の汚れが付着(吸着)しないので、体内での長期間使用に耐えることができる。

補体活性が少ないので、拒絶反応やアレルギー反応を起こしにくい。

人工血管、カテーテル、人工臓器、人工透析膜、人工皮膚、人口骨(間接部など)の表面被覆



人工関節



人工心臓



人工透析フィルター